

高橋市太郎	昭二〇・六・三〇	戦死	陸伍	レイテ島カンギボット山
富士文雄	昭二〇・四・二四	戦死	陸兵長	比島ピナツポ山西北
嶋島長五郎	昭二四・九・七	戦死	陸曹	中国山西省離石県生子
桜井賢藏	昭一六・六・二二	戦病	陸上	大阪市天王子陸軍病院
中元又五郎	昭一九・一〇・二四	戦病	陸上	中国湖南省衡陽県三板橋
増田万造	昭一九・九・二〇	戦死	陸准尉	ニュギニヤビアク島
山口勝義	昭三二・二・二	戦傷死	陸伍	セミヨノワカ地区ウオロシロ收容所
松川与三郎	昭一八・四・二五	病死	陸上	満洲牡丹江省第七六四部隊に入隊 病氣となり帰郷自宅にて没
其田松四郎	昭二二・九・二五	病死	陸上	北支那派遣病氣のため帰郷。金木病 院にて没
木村征雄	昭二〇・一〇・三	病死	陸一	千島エトロフ島にて羅病帰郷後自宅 にて没
増田千代治	昭三三・七・九	戦傷死	陸	北支那の戦闘に於て胸部貫通帰郷弘 前国立病院にて没
松川一郎	昭一六・七・三	戦病	陸	中国河北省望都県望都
山口貞一	昭一五・一・二五	戦病	陸上	中国山西省沢州県沢州
成田好男	昭一七・五・二	病死	陸上	北支那順徳にて羅病帰郷後西北病院 にて没
北川儀作	昭一七・八・二八	病死	陸上	満洲牡丹江省部隊入隊後病氣となり 青森傷痍軍人養所
成田徹円				
山口克好	昭二〇・二・二二	病死	海兵長	横須賀海軍病院
中村清作	昭一六・一・三	戦死		ガダルカナル島タンソフアロング
木村陽吉	昭二〇・二・二六	戦死	陸兵長	ルソン島マニラ市
立園才二	昭二〇・六・三	戦死		中国河南省紅家真
山口重造	昭一九・八・二	戦死	海一曹	テナアン島
上見政五郎	昭二〇・八・三	戦死		樺太豊原付近

山本 勝	昭三三・二・二四	戦病	陸兵長	ソ連アムール州チルマ收容所
上見政五郎	昭二〇・八・二五	戦死	陸伍	樺太豊原駅付近の戦闘
成田正義	昭二二・三・二九	戦病	陸伍	ソ連チタ地区リチペンエムカ
佐藤政雄	昭二〇・六・三	戦死	陸伍	レイテ島カンギボット山
成田千代作	昭二〇・六・七	戦死	陸軍	ルソン島アリタオ
山口忠徳	昭二二・三・二七	戦病	陸伍	満洲奉天省奉天陸軍病院
山口勘吉	昭二〇・六・三〇	戦死	陸曹	レイテ島カンギボット山
成田弥九郎	昭二〇・二・二三	戦死	陸兵長	レイテ島リザールダンベリット
白川勝三	昭二〇・六・三〇	戦死	陸伍	レイテ島カンギボット山
杉山正彦	昭二〇・六・三〇	戦死	陸兵長	レイテ島カンギボット山
杉山嘉四郎	昭二〇・七・一	戦死	陸曹	ルソン島スエバエシハ洲ムニヨシ
山口彦三郎	昭二〇・二・二	戦死	陸	ルソン島クラーク地位
成田 功	昭一九・六・二	戦病	陸伍	ニュギニヤ島木浦村
杉山敬三	昭二〇・二・二四	戦病	陸上	中国湖南省衡陽県七二五陸軍病院
山口武彦	昭一九・一・〇・二	戦病	陸兵長	中国湖南省衡陽県六八師団
北川 潔	昭二〇・七・二八	戦病	陸上	北千ノ島第一陸軍病院
杉山東英	昭二〇・六・三〇	戦病	陸憲伍	中国広西省沢州一九七陸軍病院
成田武光	昭一五・九・二六	戦死	陸	中国広西省凌村付近
成田専蔵	昭一八・一・九	戦死	陸兵長	ガダルカナル島ユカンボ
山口三九郎	昭二〇・五・二	戦死	海兵曹長	マーシャル群島ウオラセ島
杉山武五郎	昭一九・九・三	戦病	軍属	ブーゲンビル島

右大東亜戦争戦死者数百五四名

嘉 瀬 地 区		遺 族 代 表		
小山内 勘太郎	明治二七年	陸上	日清戦争	小山内 嘉一郎
鳴 海 永太郎	明治二七年		日清戦争	鳴 海 稲太郎
成 田 万次郎	明治三八年	陸上	日露戦争	成 田 勇 蔵
秋 村 長三郎	明治三八年		日露戦争	秋 村 粕太郎
山 中 周 吉	明治三八年		日露戦争	山 中 イ サ
須 崎 元 吉	明治三八年		日露戦争	須 崎 茂 吉
金木地区大東亜戦没者 百三十六名				
明治時代、戊辰戦争・日清戦争・日露戦争・戦没者一七名				
喜良市地区大東亜戦没者 八十名				
明治時代、日清戦争・日露戦争・戦没者四名				

右の戦没者は金木郷土史より一部抜粋したものである。

寄稿

火の用心

火の用心火事出すな 雨は天から涙は眼から
火事は我が身の油断から 若しや火元であったなら
孫七代迄も恨まれる 隣近所に迷惑す
老若男女共に注意せよ マッチやタバコの吸殻は
必ず容器に入れること
子供に火遊びさせぬ様 老人はガスの元栓閉め忘れな
家を出る時には かまどや火鉢に気を付けて
泥棒よけや火の用心

僅かな不注意のその為に いかなる宝も灰となる
世の諺にもある通り 地震・雷・火事・親父
火事より恐いものはない 若しも出火のその時は
すぐに知らせよ一一九番 若しもガス元栓閉め忘れたら
老人クラブで楽しく遊んでも 帰って見たら焼け跡で
入る家が無くなってる 本日お出での皆様よ火の用心をわすれ
るな。

立つ物づくし

立つ物集めて甚句読めば
一月内には松が立ち 二月初午で幟立ち
三月節句で雛が立ち 四月お釈迦様でお茶が立ち
五月男の節句で鯉のぼり立ち 六月祇園でみこし立ち
七月七夕柳立ち 八月お盆で仏立ち
九月秋風吹くのでホコリ立ち
十月出雲社立ち 十一月も早やすぎで
十二月ともなったなら どこの家でも同じこと
スス払いでホコリ立ち
借金取りがかどに立ち 借りた覚えはあるけれど
払うときには腹が立ち アードスコイ ドスコイ

折戸谷勉 村の語部

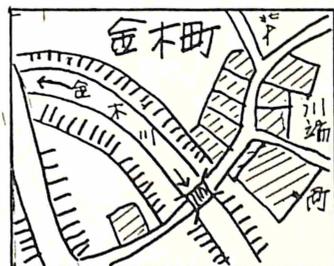
④歴史散策 金木散歩

今に残る 木橋



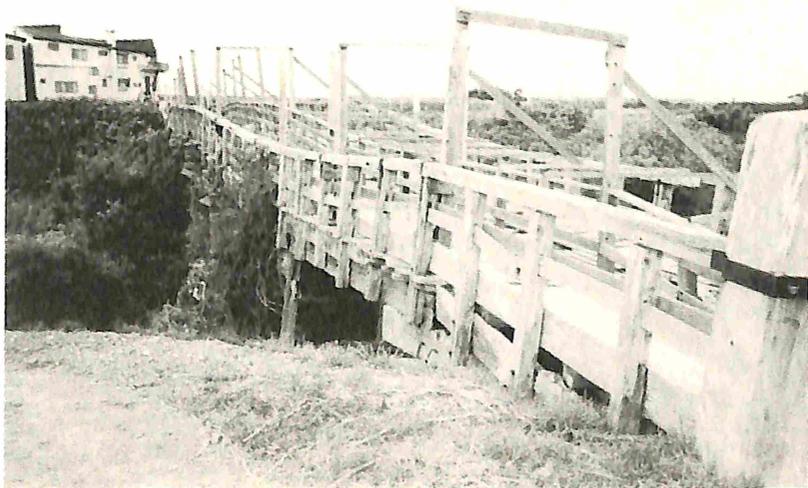
木橋全景

現在金木川に架かる橋は上流の方から ◎喜良市山十二本ヤスに至る林道橋が喜良市川（相之股）と金木川の合流地点に架けられてあるが、建設年の標示なく不詳。



◎喜良市上派立から字坂本の畑に通じる坂本橋は昭和五十九年五月竣工。 ◎金木山道町から字玉水の農地に通じる柳橋は平成元年九月竣工。 ◎国道三三九号金木本町に至る朝日橋は、昭和四十三年十二月竣工。 ◎国道三三九線バイパスに架かる金木橋は昭和四十一年十二月竣工。 ◎広域農道米ロードの菅原橋は、昭和六十一年十月竣工。 ◎沢部橋農道橋設置不詳。 ◎蒔田から五所川原に至る蒔田橋は、昭和四十六年三月竣工。 ◎西北両郡に架かる岩木川の神田橋は平成元年十一月竣工。 明治・大正・昭和初期の木橋は、洪水の度毎に破損流失を繰り返したが、よく

不朽甚だしい木橋の姿



もこの橋今日まで架っていたもの。しかし、供用できる状態にない危険極まりないが、金木最後の木橋として残して置きたい気も起きる。

（きのした清一踏査記）

津軽地方伝承俚諺解釈

諺は、昔から一般的に広く伝わる人生の教訓と思うが、私が若いころから、人から聞いたり何かで見たりした事を思い浮かべて農家に身近な事を綴って見た、又、私なりに「諺」の内容を自分なりに簡単に解釈して見たが、誤りが多々あると思うので、皆さんに解釈して下さる様にご容赦の程を願ひ申し上げます。

◎飯をコボスと拾って食べなさい。飯を粗末にすると目が潰れる

◎正月にシボド（囲炉裏に足を入れると春に水苗代に鴨が降りる

◎我が田に水を引く（我田引水）

◎田走ってもクロ（畦畔）走っても同じ

◎稲とダミ（葬式）は必ず出る。

◎稲穂実って頭下がる。人の心は稔る程に頭が下がる。

◎秋の日和の一日は夏の千日に勝る。

◎秋の朝焼けその日の雨

子供の頃に父母からよく言われた。百姓は一粒の米を穫るのも苦勞の連続であったから一粒の米も粗末にしない様に厳しく戒めたのでしよう。

農家の子供は、長い冬のあいだに囲炉裏に板を敷いて足を入れて暖を取ったので、せめて正月だけでも囲炉裏に足を入れずに行儀を良くしなさいとの事でしょう。

他人がどうしても自分さえよければよい、自分の都合のよい事ばかりを主張する。

方法や経路は違っても目的は同じ、あっちの道を行ってもこっちの道を行っても目的は同じ。

稲は幾ら寒くても必ず出穂する。葬式も必ず出る。

教養やお金がある人程に頭が下がる。

秋は百姓にとって一番忙しい季節で、たった今まで日和であっても雲がくると、あつという間に雨が降りだすから夏の千日に勝る。

朝日が昇るころに雲が朝焼けすると必ずその日のうちに雨が降るから、百姓は田圃やその他へ出かける時は、雨具を持って行った。

◎青田と花嫁は褒めるな

◎五反百姓出ず入らず

◎子供のために美田を買わず

◎使っている鋤は光っている

◎八十八夜の別れ霜

◎蒔かぬ種は生えぬ

◎自分の飯喰べて人の前考えろ

◎秋茄子嫁に喰わせるな

◎蟻の穴から土手崩れる

◎朝の早起き三文の徳

◎隣で「倉」を建てるとコバム
(憎らしい)。

◎悪銭身に付かず。

二ノ三番除草(田の草取り)の頃は稲の葉が真っ黒で分けつも多く、秋は拾俵だと思っても、稲が出来すぎて、秋の一寸した風雨で田の稲は一面にノマ(藁で編んだ覆い)今ならシート)を敷いた様に倒伏する。花嫁は来たばかりで今は「角」を隠しており「猫の面」をして温和しそうに見えるが、子供が出来てくると、「角」を出しはじめ。

五反百姓はお金が入りもせず残りもせず。

財産を残すと子孫は身を誤る事が多い

仕事に精を出しているときは生き生きと美しく見える。

霜が降りなくなる、立春から数えて八十八日目頃、五月二日頃。

収穫を得るとすれば種を蒔いて努力する。

自分には財産やお金があるからと贅沢三昧をしないで人の前を考える。

秋茄子は夏茄子と違って一段と美味しく、嫁に喰わせると余計にご飯を食べるからか、又、灰汁があり、子宮を荒らすので、嫁への思いやりかも知れない。

堅固に築いた土手も小さな蟻の穴があると大雨で激流のときはその穴から濁流が入り土手が崩れる。

早起きは空気が良いので徳がある。

隣で家を新築したり「倉」を建てたり大きい買い物をするとは隣近所では、あそこでは儲けるのは当たり前だ、寸分の暇もなく働き、粗食で隣近所の交際も少なく、欲で欲で、辛抱で辛抱でと、すぐ感情的になり、足を引っ張り「粗」を拾い、拒みが妬み心になり、世間に言いふらすが、知らない世間では、噂を真に受ける。

働いて得たお金は大切に使うが、悪い事をして得たお金はすぐ使ってしまう。

◎予算と禪寝でも外れる。

◎神仏に祈るより稼げ。

◎大掴みより小掴み

◎親と子でもお金は他。

◎お金があると馬鹿でも旦那様。

◎金持ち お金を使わない。

◎金持ち喧嘩せず。

◎地獄の沙汰も金次第。

◎お金があると鬼をも使う

◎神も仏も金次第

◎何時もあると思うな親と金。

◎神の光よりお金の光。

◎夫婦喧嘩もお金が無いから起きる。

◎貧しい程悲しいものはない。

◎貧乏暇なし。

何事も予算通りに行くの良いが予算通りに行かぬのが世の常と思う。昔の親父達は股に禪を当てて寝たが何時の間にか外れて居る。

神仏を拜んで金儲けを頼むより、一生懸命働いて儲けよ。

一度に儲けようとしなくて働いて「コツコツ」と貯めて儲ける。

金銭問題は親でも兄弟でもである。

阿呆な人でもお金があると世間では旦那様と頭を下げて挨拶する。

金持ちはお金を大切にしておかない。ゆつたりと落ちついて居る。

喧嘩しても得が無いから「ケンカ」しない。

地獄でさえも金次第で許し、世の中悪い事してもお金で済む。

学歴がなくとも白痴的な人でもお金があるとどんな人でも顎で使う事が出来る。

世の中、金次第で左右される。

親とお金は何時までも無いから大切に。

神の有り難さもそうだが世の中お金次第で光。

お金が無いと夫婦喧嘩になりやすい。

働いても働いても貧しい、貧乏程つらいものは無い。

生活に追われ、毎日毎日が回るほどに忙しい。

◎貧乏は達者の基。

◎夫婦は一心同体。

◎夫唱婦隨。

◎貧しいと親類薄い。

◎信用は無限の財産。

◎子は鏝。

◎鰯の頭も信心から。

◎仏放っとけ 神構うな。

◎見ぬ極楽知らぬ地獄。

◎坊主憎いと袈裟まで憎い。

◎弘法筆を嫌わず 弘法も筆の誤り

◎地獄の釜の蓋もあく。

◎地蔵の顔も三度。

◎正直の頭に神宿る。

貧乏な人の子供は病気になるににくい、資産家の人は一寸したことでも病気になるやすい。

夫婦は一生苦楽を共にする。糟糠の妻―貧乏な時から苦楽を共にして来た。

昔は夫の言うことに妻が絶対に従った、時代が変わり妻に夫が従うようになった。

人は薄情なもので、貧しいと付き合いが薄くなる。

信用こそ限らない財産である。信用が無いと敬遠されがちである。

離婚しようと思っても子供が居るから離婚出来ない、鏝は二本の柱を「がちり」とつなぎ止めている。

つまらない鰯の頭でも信心すると神の様に見えて有り難く思い手を合わせて拝む。

神仏の信仰にはあまりこだわらない方が良い。障らぬ神に祟りなし。あまり信仰心が強くなると何処かの宗教団体の様になる。

極楽を見てきた人も無く、地獄で仏に会った人も無い。

何処ここの親を憎いとその子供まで憎い。

粗末な筆でも上手に書く、失敗する事もある。

正月とお盆は、罪人を責めない。

どんなにおとなしく忍耐強い人でも侮辱されると怒る。

正直な人には加護がある。人間は正直な人を信用する。

◎親しき仲は遠くなる。

◎朱に交われれば赤くなる。

◎祖父母辛勞で基礎を築き子は楽して孫乞食。

◎ドギ(敷居)が高い。

◎三尺去って師の影踏まず。

◎自分を見て向こう見れ。

◎人の悪口を言う前に自分の欠点を見ろ。

◎青菜に塩。

◎悪事千里走る。

◎悪妻は死ぬまで不作

◎葉は枯れても根は残る。

◎兄弟は他人の始まり。

◎親の恩を子に返し。

余りにも親しすぎると、遠慮が無くなり不和になる。

交わる友によって感化され、善し悪し付く。

祖父母は苦勞して財産を築き、子の代は安楽に暮らし、孫の代も安楽に暮らすは落ちぶれる。

あそこの家の人は偉い人だから、又、金持ちだから敷居が高いから一寸行きづらい。

恩師には頭が上がらないから、師の影も踏まない。

人を批判する前に、自分の欠点や自分を批判してから人の事を言う。仮に嫁を貰う場合でも自分の財産や自分の息子の「器量」を見ずに相手側だけを見ると縁談は成立しない。

自分は粗だらけなのに、人の悪口を言う、千両の馬にも傷がある。一俵の白米にも粗がある。

人に自分の欠点を言われると「シオレルー元気が無くなる。」青菜に塩を振りかけると「シオレルー元気が無くなる。」

良い行ないは中々聞こえないが、悪い事をするときすぐ遠くまで聞こえる。悪いことは出来ない。

悪い妻を持つと一生の不幸である。結婚に付いての忠告だ。

例えば父母が悪いこととして亡くなっても、子供や孫と何代までもその事が残る。

自分の世帯を持つと欲が付き自分の世帯が大切であるからすべての面に付いて兄弟迄回らない。「従兄弟」「ハドゴー兄弟以外の血統のつながり」「従兄弟」「ハドゴ」は余りにも沢山あるので数えるときりが無い。

親には恩を返せないから親の恩を子に返す。

◎蟹は自分の甲羅を見て穴を掘る。

◎デッチ上げ。

◎能ある鷹爪を隠す。

◎おべだふり、あるふり、いい気なたふり。

◎能無しの無駄話

◎言ってしまった口は引込まない

◎人の口には戸は立てられぬ。

◎人の噂も七十五日。

◎褒める人一人に悪口百人。

◎女心と秋の空。

◎可愛さ三分義理七分。

◎口は災いのもと、言わぬが花。

◎お金と印鑑は命の次。

◎書いた物が物を言う。

自分の身体を見て行動する。

無いことをある様に言いふらす。

頭の良い人は資産やお金があっても、見識張らず、見栄を張らず、自分の才能をおさえておく。此の三振りが人から一番嫌われる。

才能の乏しい人はくだらぬ話を「ベチャベチャ」喋る

言ってしまうば終わりまで引込まない「口は災いのもとである」ものを言うときには注意を。

人の噂は防ぎ様が無い。

悪くても七十五日以上立つと噂は自然と薄くなる。

褒める人より悪口を言う人が多い。

恋愛結婚して子供迄あるのに女は男に文句をつけて離婚する。

孫が生まれて孫婆様は孫をメゴイ（可愛い）と子守をしているが、実際の孫の可愛さは三分位で後の七分は兄や嫁に義理を立てて子守をしているが、本当かどうか（孫は子より可愛い）普段は自分の子より可愛い。

口に出して言ってしまうと終わりであり、引込まない、それよりも言わぬが花である。

お金と印鑑は命の次であり大切なものであるから、印鑑は軽々しく捺印して後で苦しむな。

いくら調子の良い話をして、口約束では証拠にならない。

◎親の意見と茄子の花は千に一つも無駄がない。

◎親の拾七、子は見た事が無い。

◎親の心子知らず。

◎人は痩せて強くなり馬肥えて強くなる。

◎大樹程に風当たりが強い。

◎自分の「糞」は汚たなくない。

◎小さいナンバ（唐辛子）程に辛い。

◎獅子も三匹寄ると文殊の知恵。

◎子をみるより親を見よ。

◎器量の良い嫁貰うなら鍋釜質においても貰え。

◎一寸の虫にも五分の魂あり。

◎嫁婿貰うなら下から貰え。

◎蛇に蛙

◎刎頸の友

親の意見と茄子の花は無駄がない、茄子の花は咲くと必ず実になるの例え。

親は子に向かって若いころの苦労話をするが、子は親の拾七見たことない。

親の愛情を知らず、子はかえって気配である。

人間は資産もお金も無く貧乏して裸一貫だと世間を恐く無くなり、どんな暴言でも吐いてつよくなるが、馬は肥えると「力」が強い。

人は偉くなったり金持ちになったりすると世間の悪口が大きい。

自分の糞は汚なく無いが他人の糞は汚い。

小さい唐辛子は辛い、人間も心ががちりして居る。

一人で心配事があっても三人で相談すると色々な知恵が生じる。

その子を見るより、親を見ると分かる。

容姿容貌の娘を貰うなら貧乏質においても貰え。

どんな温和な人でも堪忍袋の緒がある。

嫁婿は自分より資産がある家から貰うと毎日何かと気を使う。

意中の人で無いと近寄らない、苦手な相手になるだけ近寄らない。

友の為には犠牲になっても後悔しない。

◎老いては子に従え。

◎年寄りと釘は引っ込むほど良い。

◎年寄りは薬だ

◎年寄りは家の宝。

◎年寄りと仏壇は置場に困る

◎年が仇だ。

◎鉄は熱いうちに打て。

◎娘金持に嫁がせ親貧乏。

◎その人を知るにはその人の友を見よ。

◎捨てる神あれば助ける神ある。

◎住めば都

◎宝の持ち腐れ。

◎嫁貰わば親貰え。

◎所変われば品変わる。

年を取ったら、出しゃばらず子に任せる。

年寄りが若者のそばに居ると、若者は気兼ねする。釘は頭が出ると邪魔だから金づちで打たれる。

長い人生経験があるから年を取ると考えが深く薬になる事がある。

我が家を此処まで築いたのは祖先や両親のお蔭であるから、邪魔にはなるが、何かの役に立つときもあるから家の宝である。

年寄りと仏壇は粗末にされないし、やり場に困る。

年を取ると身体の調子がおかしくなり、体力が落ちて病になりやすく、弱くなり邪魔になる。

子供が純真な心の内に鍛えないと大人になってからは効き目が薄い。

娘三人金持に嫁がせると、嫁入り仕度で財産が薄くなり、嫁ぎ先の金持ちとの交際で貧しくなるとの例えがある。

付き合っている友を見るとその人の大体の事が分かる。

面倒を見ない人もいるが、面倒見てくれる人もある。

住み慣れると、どんな所でも都だ。

才能があるのに、それを活用しない。

両親がサカシイ（品行方正）と娘も確かにサカシイと思う。

所変われば風俗や習慣もすべて変わる。

◎短気は損気。

◎隣の貧乏は鴨の味。

◎恩を仇で返す 飼い犬に手を噛まれる。

◎目が物を言う 顔で笑って心で泣く。

◎溺れる者は藁をも掴む。

◎帯に短し襷に長し。

◎井の中の蛙大海を知らず気は心。

◎孝行したい時に親は無し。

◎光陰矢の如し。

◎歲月人を待たず。

◎出る杭は打たれる。

◎荷重く道遠し。

◎貧すれば鈍す。

◎泣き面に蜂。

短気を起こすと相手に悪感情を与え、成功する事も不成功に終わる。

隣の貧乏さは心配になるが、心底からの心配ではない。

世話になった恩を忘れて恩人をひどい目に合わせ。面倒を見た人に裏切られる。

人間の心は目に表れる。悲しみや苦しみを心に押さえて顔の表情で笑っている。

水に溺れて苦しい時は一本の藁でも掴む。苦しい時はどんな人でも頼る。

どちらも中途半端で役に立たない。

家にばかり閉じこもっていても世間を知らない、気は心であるから、人に物を贈る場合でも与える場合でも誠意を示す。

若い頃は我ままで一人前になった頃は、親は亡くなって居り孝行したいと思うが後悔する。

月日の発つのは早くその日一日を後悔の無い様に懸命に生きる。

年月はどんどん過ぎていく、悔いのない人生生活を送る。

大木程に風当たり強く、頭角を現すと人から批判されがちだ。

人の一生は重荷を背負って遠い野山の道を登って居る。

生活が苦しくなると知恵の働きの鈍くなる。

悪いことが重なり不幸が続く。